

(様式)

令和5年度 美和地区小中学校評価書

学校名： 静岡市立安倍口小学校

大項目		中項目	グループ校の評価指標	自己評価	学校関係者評価委員会から (小中一貫教育準備委員会等)	改善策(来年度の目標設定,具体的な取組目標)
静岡型小中一貫教育における特色ある教育活動	【視点1】 学校の教育目標を グループ校で共有する	学校教育目標 『心豊かな たくましい生徒(子)』	① 児童生徒は、主体的に学習や活動に取り組んでいる。 様々な行事や学習、学校生活の中で児童生徒が自ら課題や目標を設定し、取り組む姿が見られた。特に、教師から指示されたことや、取り組み方が明確で見通しがもてるものには真面目にきちんと取り組む力がついている。自分たちで考えてより思考を深めたり、より良い活動にしようとする力にはまだ弱さが見られるが、クロムブックを有効に使うなど自分たちでアイデアを出して委員会活動に取り組んだり、中学生が小学生を意識して思いやりをもって生活する姿が見られてきていることから、今後もより主体的に学習や活動に取り組んでいく場面を多く設定していくことで何事にも主体的に取り組もうとする生徒(子)を育てていく。	A	①運動会当日に子どもたちが自分たちで会を運営し、先生方は温かく見守っている状況を作るまでの先生方の支援のおかげであると思った。生徒会本部役員だけでなく、全ての生徒が自分の仕事を自覚して動いていることに、自主性や主体性を感じるとともに、自分の成長を実感することができる機会となっていると思う。ふり返りで「自分・仲間」を意識することで行事を通して主体性を身につけることにつながると考える。	学校教育目標を具体化しためざす子どもの姿を美和地区の教職員で共有することが大切だと考える。あらゆる学教育活動の目標が学校教育目標につながることを教職員で共通理解した上で、児童生徒と関わっていく。また、経験不足で知らないことが多い児童生徒にいろいろな経験をさせる機会をつくりたり、教師側からの働きかけやクロムブックを活用したり、アイデアの提示したりをすることで、色々な経験をさせながら考える力を養っていく。
	【視点2】 9年間の系統性、連続性を強化した教育課程を編成・実施する	○「対話することを通して、自分の考えを深める生徒(子)」をめざす	② 児童生徒は、対話することを通して、考えを深めている。 授業づくりでは、伝え合いたくなるような課題設定、必然性のある学習問題、児童生徒の思考に沿った単元構想、伝え合いを通して考えを深めるような場の設定を意識したことで、授業に関わる環境が整った。そのため、交流に対する抵抗は少なくなってきた。しかし、友達の考えと自分の考えを比較し、関連性や類似点を見出すことができる児童は少なく感じる。教師が目指す「考えを深める」までは到達していないため、「考えを深めた姿はどういうものか」を教師が正しく理解し、授業改善に活かしていく。	B	①②授業参観では、様々な授業において友達を話し合っで解いていたり、自分の考えを積極的に説明したりする一方で、その話を熱心に聞き理解しようとする姿が見られた。 ②運動会などの学校行事で子どもたちが自分の言葉で全体に自分の思いを発信するだけでなく、ユーモアも素晴らしい。これが学習につながるとなおいと思う。また、様々な機会をフリーステージを設けてみるとよいのではないかと考える。 ③行事で中学生の姿を見ることで、中学生になることの期待をもったり、どんな中学生になりたいのかの目標をもったりとプラスのイメージが作れると思う。また、中学生は小学生にしっかりと先輩の姿を見せようと、より頑張るとい相乗効果が生まれる。小学生と中学生が共に気を遣いながら落ち着いた生活を送っていることが、中学生としての素直な生徒への成長につながっているのではないかと考える。 ④地域で子どもたちはしっかりとあいさつができるので、美和地区あいさつデーは継続して実施してもらいたい。また、地域でのお祭りやボランティア活動にも積極的に参加してくれる子が多く、自分の住んでいる場所への愛着心を強く感じる。 ④学校公開の際には、子どもたちが廊下で会う地域の方や保護者の方に笑顔であいさつしており、地域とのつながりを感じた。 ⑤あちこちが古くなってきているのは致し方ないが、先生方が校内の危険箇所をしっかりと把握して、修繕希望したり、修理できるところは修理したりと、子どもたちの安全安心の視点を大切にしていることが、子どもたちが学校生活を落ち着いて送ることができることにつながっていると思う。 ⑥学年が上がるにしたがって、スライドのまとめ方がうまくなっていると感じた。テーマも岐にわたっていておもしろい。自分がなぜそれを調べたかったのか、調べた結果どんなことがわかったのか、さらには新たにこんな疑問も生まれたなど、学習の流れがしっかりと展開されている。スライドのまとめ方や話し方の上達がこのからの大学生や社会人としての力量につながってほしい。	来年度も引き続き、美和地区の研修テーマである「伝え合うことを通して自分の考えを深められる子」の育成に向けて授業改善を行う。伝え合う時の視点を明確にし、目的をもって聞き、意見をつなげるような指導をしていく。また、伝え合っで考えを深めた後に、再び自分の言葉でまとめる(再構成する)時間を確保することで、表現力を高められるようにしたい。
	【視点3】 教職員の協働、児童生徒の交流	○幼小中の協働・交流をつなぎ、美和の魅力を開拓する。	③ 児童生徒は、地区の学校の児童生徒と交流することを通して、地域に愛着をもっている。 各学年ごと、さまざまな教科で交流活動したことで、地域や地域の人たちに目を向けることができた。幼小連携として、小学生が作ったおもちゃで遊んでもらおうと園児を招いて一緒に交流したり、就学時健康診断の際には、小学5年生が準備や当日の運営に関わるなどしたことで小学生は園児に優しく接したいという気持ちをもつことができた。小学校同士は、作品の鑑賞、動画の鑑賞、ミートでの交流など、学年に応じて交流した。足久保小と美和中は、同一校舎のため、一緒に活動することもできた。美和中での茶摘みでは小中の交流だけでなく地域の方とも交流することができ、美和地区のよさを感じる機会になった。また、美和こども作品展では、美和地区のこども達の作品を鑑賞することで作品を通して交流を深めた。 ④ 児童生徒は、地域と自分とのつながりを感じている。 小学校では、各教科で地域を題材とした学習に取り組んだり、実際に足を運んだり、また学校行事や日々の生活における経験を通して、地域とのつながりや地域を好きになる児童が多い。また、中学校では、ふるさと美和学習や学校行事を中心に地域の方を招いた学習を進めていくことで、地域に支えられていることを生徒自身が実感している。同時に、地域の活動に参画することで、支えられていることを返していく関係性ができている。しかし、保護者は、地域と学校のつながりを感じる場面が少ない。	B	③行事で中学生の姿を見ることで、中学生になることの期待をもったり、どんな中学生になりたいのかの目標をもったりとプラスのイメージが作れると思う。また、中学生は小学生にしっかりと先輩の姿を見せようと、より頑張るとい相乗効果が生まれる。小学生と中学生が共に気を遣いながら落ち着いた生活を送っていることが、中学生としての素直な生徒への成長につながっているのではないかと考える。 ④地域で子どもたちはしっかりとあいさつができるので、美和地区あいさつデーは継続して実施してもらいたい。また、地域でのお祭りやボランティア活動にも積極的に参加してくれる子が多く、自分の住んでいる場所への愛着心を強く感じる。 ④学校公開の際には、子どもたちが廊下で会う地域の方や保護者の方に笑顔であいさつしており、地域とのつながりを感じた。 ⑤あちこちが古くなってきているのは致し方ないが、先生方が校内の危険箇所をしっかりと把握して、修繕希望したり、修理できるところは修理したりと、子どもたちの安全安心の視点を大切にしていることが、子どもたちが学校生活を落ち着いて送ることができることにつながっていると思う。 ⑥学年が上がるにしたがって、スライドのまとめ方がうまくなっていると感じた。テーマも岐にわたっていておもしろい。自分がなぜそれを調べたかったのか、調べた結果どんなことがわかったのか、さらには新たにこんな疑問も生まれたなど、学習の流れがしっかりと展開されている。スライドのまとめ方や話し方の上達がこのからの大学生や社会人としての力量につながってほしい。	次年度の学年部ごとの交流の目安となるよう、交流の実践を記録したものを文書として残していくようにする。児童生徒同士の直接的な交流だけでなく、小学校では教員同士が単元構想を共有するなどして、中学での学びに繋げていきたい。また、中学校では、茶摘み手もみに留まらず様々な場面で園や小学校と交流できる場面を模索していく。
	【視点4】 地域との連携	○家庭と地域と学校をつなぎ、美和を愛する心を育てる。	⑤ 毎月の安全点検を確実にに行い、危険箇所の把握に努めている。 毎月行う安全点検により、危険箇所や修繕が必要な箇所についてはすぐに確認し、対策をしたり、修繕するようにしている。そのため、児童が安心して学校生活を過ごすことができた。一方で、保護者や児童生徒との、安全に対する意識のずれも感じられる。	A	④地域で子どもたちはしっかりとあいさつができるので、美和地区あいさつデーは継続して実施してもらいたい。また、地域でのお祭りやボランティア活動にも積極的に参加してくれる子が多く、自分の住んでいる場所への愛着心を強く感じる。 ④学校公開の際には、子どもたちが廊下で会う地域の方や保護者の方に笑顔であいさつしており、地域とのつながりを感じた。 ⑤あちこちが古くなってきているのは致し方ないが、先生方が校内の危険箇所をしっかりと把握して、修繕希望したり、修理できるところは修理したりと、子どもたちの安全安心の視点を大切にしていることが、子どもたちが学校生活を落ち着いて送ることができることにつながっていると思う。 ⑥学年が上がるにしたがって、スライドのまとめ方がうまくなっていると感じた。テーマも岐にわたっていておもしろい。自分がなぜそれを調べたかったのか、調べた結果どんなことがわかったのか、さらには新たにこんな疑問も生まれたなど、学習の流れがしっかりと展開されている。スライドのまとめ方や話し方の上達がこのからの大学生や社会人としての力量につながってほしい。	地域とのかかわりを位置づけた取り組みにおいて、保護者に発信したり、また一緒に行事などに参画したりする場を位置づけていくことで、より地域と自分、家庭とのつながりを深めていく。また、美和中学校は、3小学校区が集まって1つの美和地区になるので、生徒同士が互いの学区について知る機会を位置づけていくことで、美和地区に対する愛着や理解をさらに広げていきたい。
学校環境	施設・設備の安全点検と維持管理	⑤ 毎月の安全点検を確実にに行い、危険箇所の把握に努めている。 毎月行う安全点検により、危険箇所や修繕が必要な箇所についてはすぐに確認し、対策をしたり、修繕するようにしている。そのため、児童が安心して学校生活を過ごすことができた。一方で、保護者や児童生徒との、安全に対する意識のずれも感じられる。	A	④地域で子どもたちはしっかりとあいさつができるので、美和地区あいさつデーは継続して実施してもらいたい。また、地域でのお祭りやボランティア活動にも積極的に参加してくれる子が多く、自分の住んでいる場所への愛着心を強く感じる。 ④学校公開の際には、子どもたちが廊下で会う地域の方や保護者の方に笑顔であいさつしており、地域とのつながりを感じた。 ⑤あちこちが古くなってきているのは致し方ないが、先生方が校内の危険箇所をしっかりと把握して、修繕希望したり、修理できるところは修理したりと、子どもたちの安全安心の視点を大切にしていることが、子どもたちが学校生活を落ち着いて送ることができることにつながっていると思う。 ⑥学年が上がるにしたがって、スライドのまとめ方がうまくなっていると感じた。テーマも岐にわたっていておもしろい。自分がなぜそれを調べたかったのか、調べた結果どんなことがわかったのか、さらには新たにこんな疑問も生まれたなど、学習の流れがしっかりと展開されている。スライドのまとめ方や話し方の上達がこのからの大学生や社会人としての力量につながってほしい。	安全点検を、今後も継続して確実にやっていく。また、保護者や児童生徒が危険箇所だと感じている箇所を学校側が把握することに努めたり(学校評価アンケートの記述欄を効果的に使う等)、学校側が行っている安全対策について、積極的に発信したりすることで、意識のずれを解消していく。	
グループ校の軸となる取組・活動				自己評価		
美和らしさの追求(創造I) ・しずおか学 ・地域との互惠関係の強化→地域環境、施設活用			⑥ 児童生徒は、ふるさと美和学習にすすんで取り組んでいる。 コロナ禍からの制限が少しずつ緩和され、体験活動や地域の人を招いた取り組み等、学習の幅が広がったことで子どもたちの学びにも広がりが出た。また、お茶だけにこだわらず、地域の色を生かしたテーマを設定することで、児童・生徒は、各学年、年間を通して地域の人・施設などを活用しながら進んで学習に取り組むことができた。自分でテーマを設定し、課題を解決していく学びを展開していくことで、美和地区の特色を知るとともに、美和地区の一員として自分たちができることを見つけ、追求していく姿勢が見られた。	A		より地域に根ざしたふるさと美和学習を進めていくために、児童生徒だけでなく、教員も地域を知る必要があると考える。そのために、美和地区の地域の人材リストを作成し活用していきけるようにしたい。また、ふるさと美和学習の目標や年間の活動において、職員間で共有するとともに、地域の色や児童生徒の実態に応じた年間計画の見直しを行うことで、子どもたちがより主体的に学んでいく姿を目指したい。
各 評価 校 の	大項目	中項目		自己評価		改善策(来年度の目標設定,具体的な取組目標)
	重点目標 『共にチャレンジする子 友だちと～』の実現に向けて	共にチャレンジする子 ～自分から 友だちと～の実現に向けての工夫	児童は、友だちと協力して、いろいろなことにチャレンジしている。 (学校説明) アンケート結果は、児童・保護者・教職員とも肯定的な回答している割合が高い。これは、学校生活のあらゆる場面で、子ども達がチャレンジしたり、友だちと一緒に活動する場を意図的に設定してきた成果だと捉えている。今後も学校生活のあらゆる場面で、子どもが自分から動いたり、友だちと協力する力を伸ばしていきたい。	A		自分からチャレンジすることで「できた」という達成感をもったり、自己肯定感や自己有用感を高めたり、友だちと協働することで、学びを深めたりする場を来年度も継続して設定していきたい。そして心量かたくなましい子の育成を目指していきたい。
静岡型小中一貫教育における共通となる教育活動	学力の状況 (全国学力・学習状況調査)	小学校	学習面では、国語では「話すこと・聞くこと」は良好な結果が得られた。しかし、「言語の特徴や使い方に関する事項」では「漢字や敬語を正しく使うこと」、「読むこと」では文の要点や必要な情報を読み取ったり、目的や意図に応じて自分の考えを明確にしてまとめたり、相手に伝わるように工夫して書き表したりすることに課題が見られた。算数では、何度も繰り返し練習する知識・技能面は概ね良好であるが、図形の性質や定義を使って問題を解いたり、それを応用して答えたりする問題に課題が見られた。また、複数の事象を比較したり、条件に合う数を読み取ったりすることに課題が見られた。生活面では、規則正しい生活を心がけて生活していることや、平日の家庭学習時間が平均よりも多く、読書が好き、など良い学習習慣が定着している。また、学習したことを他教科や実生活にも生かそうとしていることが分けた。			改善策(来年度の目標設定,具体的な取組目標) <小学校> 国語では、得意とする「話す・聞く」活動を通して、伝えたい事柄の要点を絞ったり掘ったりする経験を重ねながら、「書く・読む」力の向上へつなげていくという指導をしていく。算数では、家庭学習等の丁寧な取り組みの積み重ねを今後も大事にしつつ、友達と意見を出し合っで考えていく授業を行っていく。美和地区4校で取り組んでいる「健康ウィーク」での基本的な生活習慣の意識付けや、研修で取り組んでいる「話し合い」を通して考えを深めていく指導が、子どもたちの中に生きている。今後も教職員全体で共通理解を図りながら指導を続け、子どもたちにより良い学習習慣や生活習慣が身に付くようにしていきたい。 <中学校> 本校の手立てである「学び合い」について再確認し、授業の中で積極的に取り入れたり、基本的な発表の仕方提示し、総合的な学習の時間で活用するなど、考えを分かりやすく伝える指導を行ったりしていきたい。また、各教科の授業において、自分の意見や思いをもつ時間、それを自分の言葉で書くことや伝えることを通して表現する場や、行事などで自分の思いを伝える場を設定したい。さらに、授業の始めに目標や課題を分かりやすく示すとともに、各単元や授業の中で学びを振り返る場を確実に設定し、子どもたちが学びによって身に付けた力を実感できるようにしていきたい。 挨拶や清掃・生徒会活動を通して、自ら進んで取り組む姿勢を、家庭や地域でも実践できるような態度の育成に努めたい。
		中学校	学習面では、国語では、「読むことの領域」では、全国の正答率と同等である。「場面と場面、場面と描写などを結びつけて内容を解釈する」問題では、全国の正答率を上回った。「書くこと」の領域及び記述式問題の正答率が全国平均を下回った。文章を構築する力、読み取ったことや自分の考えを書く力に課題が見られた。数学では、「数と式」の領域は、全国及び県の正答率より上回った。日々の授業のスタート学習における計算練習の成果が表れた。「図形」の領域において、証明を振り返り読み取る問題では、全国の正答率を下回り、明確な根拠をもって論理的に記述する力に課題が見られた。「関数」の領域では、事象を関数として捉え数学的に物事を解釈する問題で全国正答率を下回った。ともなって変化する2つの変数について、式やグラフを読み取り規則性を見出す力に課題が見られた。英語では、「聞くこと」「話すこと」の領域は、全国の正答率と同等である。道案内や買い物場における「情報を正確に聞き取る」問題では、全国の正答率を上回った。「話すこと」の領域は、全国の正答率を下回った。「やりとりの中で得た情報をふまえて、相手に質問する」問題では、即興で質問を考えて答えることに課題が見られ、全国の正答率を下回った。学習状況では、「人が困っているときは進んで助けたい。人の役に立つ人間になりたい」地域の行事に参加している・学校の生徒との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりしている」についてはほとんどの生徒がそうだと回答しています。しかし、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」については、そうだと回答している割合は上昇したものの、継続的な課題であると言える。			
	小学校	3校の平均で見ると、どの種目も全国平均と同じくらいになっている。個人の運動評価ではA評価の児童がとて少ない。運動する機会の少なさが関係していると考えられる。学校ごとに見ると、筋力や自分の体を支える動きに課題がみられるところ、走力、瞬発力に課題がみられるところがある。体力の偏りがあるので、まず楽しく体を動かせるような環境づくりをし、体育の授業の中でいろいろな動きをする体づくり運動を考えていきたい。				<小学校> 学校ごと課題が違い、個人差があるため体育の授業の始めの準備体操で、体を支える動きや柔軟性を高める運動を取り入れたい。また、遊具を使った様々な動きを入れたサーキット運動をしたい。自分の課題に気づかせ、単元の終わりに何ができるようになりたいか、個人の目標をもたせる。また、それを達成するために自分に合った練習を選択できる環境を整えていく。 また、気軽に運動できるような環境、雰囲気づくりをしていきたい。朝や休み時間に体を動かしたくなる遊び、企画をクラスや委員会で作ってほしい。 <中学校> 準備運動で、柔軟性や握力を高める運動を意図的に取り入れることで、基礎的な力を身につけさせる。さらに、器械運動、ダンス、ハンドボール、柔道などの、柔軟性や握力を要する運動を授業で実践する中で、それらの力を向上させたい。
中学校	男女ともに、握力、長座体前屈の記録が大きく全国平均を下回る結果となった。他種目について、男子は全国平均を上回っている種目は多いが、体力はバランスよく身に付けていく必要がある。そのため、全国平均を下回る結果となったものについては、体育の授業で補えるような体づくり運動を取り入れていく必要がある。また、女子が全国平均を下回る種目が男子に比べ多いので、女子生徒が自主的に体カトレーニングに励むことができるように理論的な裏付けを理解させるとともに、体カトレーニングを重ねていけるようにすることが大切である。					
生徒指導の状況 (学校いじめ防止基本方針)			(学校説明) 定期的なアンケートによる児童生徒の実態把握、「子どもを語る会」や打合せを通じた職員間の情報共有などを通して、児童生徒の状況について全職員で対応できるよう心がけてきた。問題が起きたときには、各校の生徒指導主任を中心に組織的な対応を取ることができている。日常から児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高めたり、相手意識や規範意識を高めたりする手立てを継続している。美和地区全体的に、児童生徒の状況は落ち着いているので、次年度もこれらの手立てを継続し、いじめは絶対に許さないという姿勢を大切にしていきたい。			改善策(来年度の目標設定,具体的な取組目標) 子どもたちの声や様子を観察、把握することでいじめの未然防止、早期発見に努め、対応100%を目標としたい。また、職員間での情報共有や情報交換を常に行える環境を整えることで、組織的に対応できる体制を整えていきたい。